

ファール会のイベントの性格と参加の条件について

もくじ

1. 参加資格（**会員にならなくてもイベントに参加できます**）
 2. 年齢制限・募集人員（**募集条件は安全の確保や子どもの能力を考えて設定しています**）
 3. 申し込み方法（**ホームページからのみ受け付けます**）
 4. 子どもたちの成長に合わせて（**虫取り、虫遊びの会ではありません**）
(1)「虫取り」は遊び (2)「採集」は科学の手段 (3) 虫取りから昆虫採集へ (4) 年齢制限その他
 5. 採集観察会のあり方（基本は自由行動、虫を採ったあとどうするかを考えた上で採る）
 6. 昆虫採集観察会と昆虫塾（採集会は科学入門のための機会）
 7. 年間計画など（**確実な情報だけを流します**）
-

1. 参加資格 **※会員にならなくてもイベントに参加できます**

ファール会が主催・募集する昆虫関係イベント（採集観察会、標本教室など）には、どなたでもご参加いただけます。ファール会の会員やファール会の中にある昆虫塾の会員でないと参加できないということは一切ありません。また、前記の会員であっても、何か有利になったり参加が優先されたりということは一切ありません。また募集開始を個人にお知らせするようなサービスもしておりません。すべての人が公平に扱われることが私たちのモットーだからです。

2. 年齢制限・募集人員 **※募集条件は安全の確保や子どもの能力を考えて設定しています**（項番 4 も参照願います）

イベントには参加年齢等の制限を設ける場合があります。これは、安全確保のためや子どもたちの能力や体力の発達状況を考慮し、イベントの進行をスムーズに運ぶためです。もちろん個人差やお子様の状態の違いはあるのですが、例外を認めたらこのようなイベントは運営出来なくなります。もちろん、これもファール会等の会員であるかないかともまったく関係なく適用しています。

また、募集人員は、採集会では安全確保やスタッフの指導でコントロールできること、自然への圧力が大きすぎないこと、駅から歩いて行けることなどを配慮し、標本教室では会場の席数で、定員の設定をしています。

一方、最近では募集を開始すると、短時間で募集人員が埋まってしまうようになって、大変ご迷惑をおかけする事態に至っています。これに対する方策を検討していますが、困難が多く、未だ解決策が見つかりません。暫くご辛抱をお願いします。

3. 申し込み方法 ※ホームページからのみ受け付けます

参加のお申込みは、ホームページの各イベントの案内詳細ページ（募集要項）のなかにある、「応募方法」の「イベント申し込みフォーム」から受け付けます。

お申し込みが受け付けられると自動返信メールが送信されます。以下のような場合は別途個別にご連絡します。

- ・定員オーバー
- ・参加条件を満たしていない
- ・催行中止
- ・その他連絡が必要と判断した場合

なお、上記の申込み時の自動返信や個別連絡のメールが届かないケースがあるようです。メールアドレスの入力ミス、メール受信設定（ドメイン指定）、メール自動振り分け（迷惑メール）をご確認ください。

フォーム以外でのお申込みは受け付けていません。ファール会への電話やスタッフ（昆虫館スタッフを含む）に直接申し込むことはできません。

また、募集開始情報を事前に特定の人にお知らせすることもしません。これらの対応も、混乱を避け公平を期すためのものです。

4. 子どもたちの成長に合わせて ※虫取り、虫遊びの会ではありません

イベントの主要なものは、昆虫採集観察会と初級昆虫標本作成教室です。これらは昆虫と科学的に対峙する手段を学ぶものです。

(1) 「虫取り」は遊び

虫好きの子どもたちは、一定数います。小さく多くの虫は手で触ることができます。しかも生きていて自分で動きます。こんな身近で素敵な遊び相手は他にはなかなかありません。虫を取ることも遊びのひとつになります。こうした遊びは、小さい子たちの精神的、肉体的生育にはよい影響を与えます。だから「虫取り」はたしかに子どもの遊びというのが一般的な考えになるのでしょう。中には「昆虫採取」と表記する人もいますが、まさに「虫取りは子どもの遊び」と考えてのことと思われる。しかし、催行するイベントは、虫取りあそびをするためのものではありません。

(2) 「採集」は科学の手段

「昆虫採集」は「虫取り」のことではありません。なぜ採るかというと、目当ての虫があって、それを採り集めて、科学的に観察し調査し、比較分類したり、分布を調べたり、記録して研究したり飼育をして生態を調べたりするために、採り集めるのが、「昆虫採集」です。それは、科学的調査研究のための行為なのです。そして昆虫標本はその科学的調査研究の素材、記録の証拠品なのです。昆虫採集では目的に関係のない虫は採りません。また、標本として記録するには不完全な個体（傷ついているものなど）は採っても逃がします。また、生息地の環境保持についても考慮しながらマナーを指導し対応していただきます。

(3) 虫取りから昆虫採集へ

一般的に小学校で理科（科学）がはじまるのは3年生になってからです。また採集となると、体力、注意力などの能力が要求されます。標本づくりでは、器用さや集中力、バランス感覚などの能力が必要になります。そういうものは小3で出来あがるのではなく、その頃になって発達しはじめる能力です。同時に「虫取りあそび」を卒業し、科学の世界への転換期が始まります。平均的に言えば、小5くらいまでに、興味の在り方が転換していき、器用さや注意力、自分の安全確保や環境配慮の力も付いてきます。これで「昆虫採集」の科学の世界に入ることができるのです。

項番2の「参加年齢制限」の基本的な考え方は、この科学への転換期がひとつの目安になっています。

(4) 年齢制限その他（多くの方のご要望との苦しい関係）

・昆虫採集観察会では

しかし、もっと下の年齢の子たちからの要望も多いようなので、保護者の協力補助、安全確保をお願いすること、高学年の子と成果などに差が出ることを承知で参加して頂く場合もありました。そこで上級生たちの行動を見て育つのも有効なことだと考えたからです。しかし、最近は、応募者が殺到するようになり、そうした余裕もなくなりつつあります。

なお、具体的な制限は、行く場所や目的とするものの違いで、個々に検討して決めています。

また、上のお子さんの参加に、参加資格に満たない下のお子さんを同道させたいとのご希望があることがあります。しかし、このイベントは単なる「虫取り」ではありません。遊びではなく、それなりの教育的な目的をもって行っているのです。ピクニックや野山遊びとは違います。この点も是非ご理解ください。

こんなこともあります。例えばチョウを採るのには、追いかけてもほとんど採れません。やってくる場所を予測して、ネットは静かに横に払うのが基本です。そうして草花などを傷めないように採るのです。それを教えても、小3くらいまでは守れません。すぐに大声をだして走り出し、取り逃がす（むしろ追い払う）ことになります。これが彼らの本能的な姿のようです。こうして、結果的に高学年の子どもたちの邪魔をすることになってしまいます。

・標本作成教室では

昆虫標本作成教室は、昆虫採集に付随する科学的手法を学ぶもので、教室で学んだら、自分で採った昆虫を自ら標本にする練習を積んでいただくことを期待して開催しているものです。えてして年少のお子さんは、標本教室を何度でも受けたいと希望します。つまり、この子たちは外観では標本をつくっていますが、虫をいじりながら楽しく遊んだという記憶しか残っていないのではないかと思います。これは私どもの期待する姿ではありません。自分の採集活動をよりよいものにするために、教室で学んだことを自分で練習し工夫してもらいたいと考えています。

そこで標本教室では保護者も一緒になって参加していただき、手順や処理法などを保護者が覚えて家庭で教え

て頂けるよう期待しております。そのため、受講回数を制限し、新規希望者の機会を確保することを優先していません。

小3くらいまでの子どもたちは、手の感覚（触覚）が発達中です。なんでも先ず触って確認します。触らないように言っても、知らず知らずのうちに手が出てしまいます。甲虫の種類によっては、触ってもさほど問題は起きない（針で作業するよう指導しますが）場合があります。しかし、チョウでは、翅を破いたり鱗粉が取れたりして、標本を台無しにしてしまいます。また微妙な力加減を覚える必要もあります。そのため、募集の年齢制限を別々に設定しています。

なお、子どもたちの発育発達については、ホームページの本欄に、「虫好きの子どもたちはどう育っていくか」という資料があります。こちらも参考になるとお思いますのでご一読ください。

5. 採集観察会のあり方 ※基本は自由行動、虫を採ったあとどうするかを考えた上で採る

昆虫採集観察会では、現地での注意事項の説明と、初歩の子に虫の採り方（捕る、取り込む、持ち帰りの方法など）の説明をしますが、あとは自由行動になります。初心の子を優先させたり、特別に指導したりすることはしません。また、予め獲物を用意しておいたり、確実に捕れる場所を確保しておいたりするようなことはしませんので、時期や天候などで大きな成果の差がでます。採集成果ゼロのこともあります。それが自然なので、自然をあるがままに学ぶ場でもあるのです。

採った虫を持ち帰る場合は、標本にできること、あるいは飼育ができること（飼育環境が作れ、餌の確保ができるなど）を確認します。

帰るときに採ったものを放すのは、虫を弱らせて放すことになり、それでは決して自然に優しいとは言えません。鳥などが捕え易くして放り出しているにすぎません。人はただ虫の死を直接見ないようにしているだけの偽善だと考えられます。採ったあとの始末ができないものははじめから採らないことが原則です。これも「単なる虫取り」ではない所以です。

昆虫採集をしていると、「命ある虫を捕ってはいけない」などと注意する人に出会います。私たちは前述の目的をきちんと説明して対応しますが、「昆虫採取」では理解していただけません。このことをよくご理解いただきたいと考えています。

6. 昆虫採集観察会と昆虫塾 ※採集会は科学入門のための機会

「昆虫採集」は基本的には、個人（もしくは少人数）でやる性質のものです。昆虫の種数は非常に多く、それをどう研究するのかというアプローチの仕方も多彩になります。そのため、同じ志向を持つ人はおのずと少なくなります。目的の虫によって、その居場所はまちまちなので、採集に行く場所も行動も異なります。さらに大勢が同じ場所で採集すれば、それだけ環境に影響を与えやすくなります。一人なら小さな場所で環境に負荷を与えることが少なく採集観察ができます。

ファール会の昆虫採集観察会は、自然科学への入門のための機会です。基本的な要領がわかると、あとは自分で調べながら自分にあったフィールドで活動することになります。いつまでも採集会に頼らずに、自分でフィールドへ出て経験を増やしていきましょう。

昆虫塾は、基本的にはそういう個人ベースで活動する人たちの情報交換や交流を図る場です。初心者（後進者）への支援や相談にも乗りますから、採集観察会を経験したら、そのあとで昆虫塾の会員になって、個人活動のためのアドバイスや虫の情報を教えてもらうのもよいでしょう。

また、特に幼児～小学校低学年のお子さん、つまり「虫取り遊び期」のお子さんをどう見守ったらいいかわからないとか、親自身も昆虫の知識が少ないので困る、との話も聞きます。昆虫塾では、会員同士が交流できるメーリングリストを設けています。昆虫塾に入って、この場をお悩み相談の場としてご活用していただくこともできます。特に虫の飼育は、親子でできる虫活動ですので、飼い方の相談をするのもいいでしょう。

7. 年間計画など ※**確実な情報だけを流します**

昆虫採集観察会などの先々の予定を知りたいとのご要望を頂きます。かつてそれに応えて公開したことがありますが、情報が勝手に拡散されて思いもよらない問題になることもあって、混乱を避けるため先の計画の公開を控え、確実な情報だけを公開することにしています。

採集観察会は自然相手のイベントです。予定していた場所で工事が始まっていたり、立ち入り禁止になっていたということがよく起こります。あるいはバスの廃線、林の伐採、崖崩れ、台風被害などもあります。また、その年の昆虫の発生状況も変化し早期予想は困難です。そこで、おおよその計画は立てますが、具体化する際は下見などで直近の状況を確認し、安全や成果などを予想し、場合によっては代替地を探したり、時期を遅らせたりの対策をとります。一方、イベントの進行は全員「ボランティア」スタッフがっていますが、他の行事と重なって、イベントの必要人数が確保できないことも起き、予定の変更をせざるを得ないこともあります。そのため詳細が確定してから募集することになっています。ご理解ください。

以上

[参考] お子さんの発育段階にあわせて考えてあげましょう

幼児～小3期（虫と遊んで情操、感受性を養う時期）

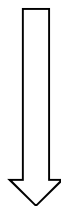


・関心 … 虫に触って遊ぶこと、親の手を借りて一緒に飼うこと、虫取り遊び

身体的精神的能力発育



小4～5以上（科学的なことを学ぶ時期）



・昆虫採集をし、個々の昆虫を自ら観察し、調べ、標本を作ったり記録を付けたりする